

令和元年度 第1回 国民健康保険運営協議会 議事概要

- 1 日 時 令和元年7月26日(金) (開会) 午後1時30分
- 2 場 所 知立市役所北 現業等 第9会議室
- 3 出席委員

公益代表 竹本 有基、飯田 善賢、竹本 清、毛受 秀之
医療機関代表 宮本 史生、神谷 雅人、中根 康夫、塚本 幸夫
被保険者代表 河村 京子、鈴木 民樹、荻部 美恵、松井 敬一
事務局職員 清水 弘一、市川 敏一、河合 圭太、河原崎 竜耶

4 議題

国民健康保険税の改正について

5 報告事項

- (1) 平成30年度国民健康保険事業決算見込について
- (2) 令和元年度国民健康保険税の課税状況について

6 概要

(1) 議題について

地方税施行令の改正に伴う課税限度額の引き上げおよび、県への納付金と保険税収の乖離による保険税率の引き上げについて事務局より説明した。

基礎課税額(医療分)の限度額が61万円に引き上げられた。後期高齢者支援金分および介護納付金分は変更がない。国保税全体としては限度額が93万円から96万円になった。

県より納付金が割当てられ、当市は1,580,731,499円が今年度の納付金となるため、税率改正を実施した。実施後の税率は、医療分5.20%、後期分2.36%、介護分2.28%。

【主な意見・質疑応答】

委員 県の納付金と税収との乖離のための3.7%の増額についてはいつまで続くのか。

事務局 概ね6年間です。この期間は、激変緩和期間として負担増を求めるときの補助金もついております。試算では令和6年に県との乖離が埋まることとなります。

委員 被保の数が減っていることの要因は何か

事務局 後期高齢者への意向と、社会保険加入者が多くなっていることが

挙げられます。

(2) 報告事項(1)

平成30年度国民健康保険事業決算見込について

決算見込み額は歳入が53億1,626万円、歳出が52億7,286万円で形式収支は4,340万円の黒字だが、基金の繰入繰越、および法定外繰入を考慮すると、2億4,126万円の赤字である。

【主な意見・質疑応答】

委員 収支差引額の平成29年度と平成30年度を比較して大幅に黒字額が減っている理由は何か。

事務局 収支差引額については、基金の取り崩しが反映されているので、平成29年度は基金の取り崩しがあり、平成30年度はその取り崩しなかったものであり、基金の出入り分がほぼこの差分だと考えていただければよく、実質の収支は赤字となっております。

委員 昨年度出していた負担率の見込みについては、見込み通りだったということか。

事務局 結果的にはおおむね見込みどおりとなりましたが、他の要因として歳入が想定以上ありましたので、予定よりも基金繰入を減らすことができました。

報告事項(2)

令和元年度国民健康保険税の課税状況について

本年度の当初調定額は12億3,37万8,700円で、前年度と比べ約2,100万円の減少となっている。

【主な意見・質疑応答】

委員 税率改正はあっても、調定額は下がっているがこれは国保加入者数の減少によるもので、収納率が上がってきているので問題はないということでしょうか。

事務局 おおむねその通りです。一点、今年度40歳到達者の介護保険納付金分については現時点では未調定となっておりますので、その分は決

算と比較して下がっております。